

八街市小間子牧丹尾台野馬土手

— 一般県道東金山田台線防災・安全交付金(交通安全)事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成28年3月

千葉県教育委員会

やちまたし おまごまきたんのうだいのまどて

八街市小間子牧丹尾台野馬土手

— 一般県道東金山田台線防災・安全交付金(交通安全)事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —



序 文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡などが埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会は、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的としたこれまでの諸活動に加え、平成25年度から千葉県が行う開発事業にかかる発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について直接実施することとしました。

本書は、千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第14集となる、一般県道東金山田台線防災・安全交付金（交通安全）事業に伴って実施した八街市小間子牧丹尾台野馬土手の発掘調査報告書です。周辺の調査事例と合わせ、当該牧の南端部の様相を知る手がかりが得られました。

刊行に当たり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する興味を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理事業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大な御協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

平成28年3月

千葉県教育委員会
文化財課長 永沼律朗

凡 例

- 1 本書は、千葉県県土整備部印旛土木事務所による一般県道東金山田台線防災・安全交付金（交通安全）事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書は、下記の遺跡を取録したものである。

小間子牧丹尾台野馬土手 八街市山田台 28 の一部（遺跡コード 230-009）
- 3 千葉県県土整備部の依頼を受け、発掘調査及び報告書作成に至る整理作業を平成 27 年度に千葉県教育庁教育振興部文化財課が実施した。
- 4 調査組織及び発掘調査と整理作業の期間・担当者等は、以下のとおりである。

平成 27 年度

千葉県教育庁教育振興部文化財課

文化財課長	永沼律朗
発掘調査班長	蜂屋孝之
担当者	主任上席文化財主事 田島新
実施期間	発掘作業 平成 27 年 10 月 22 日
	整理作業 平成 27 年 11 月 2 日～11 月 30 日
- 5 本書の執筆・編集は田島が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、八街市教育委員会、酒々井町教育委員会、東金市教育委員会、千葉県県土整備部道路整備課、同印旛土木事務所、成田市三里塚御料牧場記念館、千葉県酪農のさとほか多くの方々から御指導・御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第 2 図 国土地理院発行 1/25,000 地形図「八街」「東金」平成 22 年を縮小編集

第 3 図 八街市発行 1/2,500 八街市地形図を拡大編集

第 5 図 「佐倉七牧大絵図」酒々井町教育委員会提供によるデジタル画像の一部を掲載

第 6 図 参謀本部陸軍部測量局作成 1/20,000 迅速測図「東金町」を拡大編集
- 8 図版 1 の航空写真は、京葉測量株式会社による昭和 52 年撮影のものを使用した。

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の概要	1
1	事業の経緯と経過	1
2	調査の方法と経過	1
第2節	遺跡の位置と小間子牧	2
第2章	調査の成果	5
第3章	総括	6
報告書抄録		巻末

挿図目次

第1図	千葉県内の近世牧位置図	2	第4図	トレンチ・出土遺物	5
第2図	小間子牧位置図	3	第5図	佐倉七牧大絵図	7
第3図	周辺地形図と調査地点	4	第6図	迅速測図と調査地点	8

図版目次

図版1	航空写真 (S=約 1/10,000)	図版3	トレンチ・調査後・周辺の野馬土手
図版2	遺跡遠景・調査前・トレンチ	図版4	大塚・周辺環境

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 事業の経緯と経過

八街市は下総台地の南部に位置し、千葉県西部と北東部、南東部へ向かう交通路の要衝である。江戸期は佐倉牧の広大な原野の一部であった。北部は「柳沢牧」、南部は「小間子牧」となっており、江戸幕府による野馬の生産地であった。明治初期、新政府の政策により牧を民間に払い下げ、開墾が進められることとなり、明治2年に開墾着手の順序によって「柳沢牧」に「八街」という地名が付けられ、現在に至っている。

今回の調査地区の周辺は、千葉東金道路、国道126号、東金山田台線等、有料道路や国道道が集中しているため、交通量が増加している地域であることから、歩行者の安全等を図るため主要地方道東金山田台線の整備計画がたてられた。この整備計画にあたって平成27年1月に、千葉県印旛土木事務所長より事業地内における「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会へ提出された。千葉県教育委員会では現地踏査等の結果を踏まえ、平成27年2月に事業計画地内に野馬土手が所在する旨の回答を行った。そして、この回答を受け、その取扱いについて関係機関による協議を重ねた結果、事業の性格上やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり、千葉県教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、調査対象36m²に対して平成27年10月22日に開始し、同日に現場作業を終了し、11月2日から11月30日まで整理作業を実施した。

2 調査の方法と経過

発掘調査 調査対象範囲の現況は県道と市道がT字路でぶつかる交差点にあたっている。踏査の結果、野馬土手の土手部はすでに削平され、その高まりは完全に失われていることが明らかであった。近隣に残る土手の状況から野馬堀等の施設が検出される可能性が高いため、確認グリッドを設定し、交差点の安全確保のため、表層から人力により確認グリッドの掘削を実施した。

トレンチ内では遺構や遺物は検出されなかったが、事業地内の表層から近世銭貨が採集された。調査終了後、トレンチを人力で埋め戻し、現場作業を終えた。なお、旧石器時代包蔵地ではないため、下層確認調査は実施していない。記録作成は従来通り平板測量による地形測量図・トレンチ・平面図、断面図についても手実測により行った。写真撮影はデジタルカメラ（Raw・JPEGデータ）とともに、6×7モノクロ、35mmカラーリバーサルフィルムカメラにより実施した。調査後、今回の調査対象となった野馬土手周辺の残存状況等を確認する踏査を実施し、写真撮影などを行った。

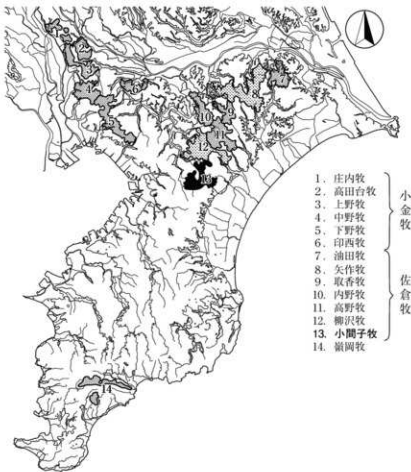
整理作業 既存の小間子牧野馬土手資料の収集・整理、調査図面・写真の記録整理を進めた。その後、現場図面を鉛筆トレース・修正を行い、また、写真図版候補写真を選出し、仮レイアウトを行った。その挿入・写真図版原因をもとにデジタル編集によるトレースや写真補正等をして、挿入・写真図版を作成した。その後、原稿執筆・編集・校正作業をへて、整理作業を終了した。なお、編集集中に報告書に基づいた収納整理作業も併せて実施した。

第2節 遺跡の位置と小間子牧（第1～3図、図版1）

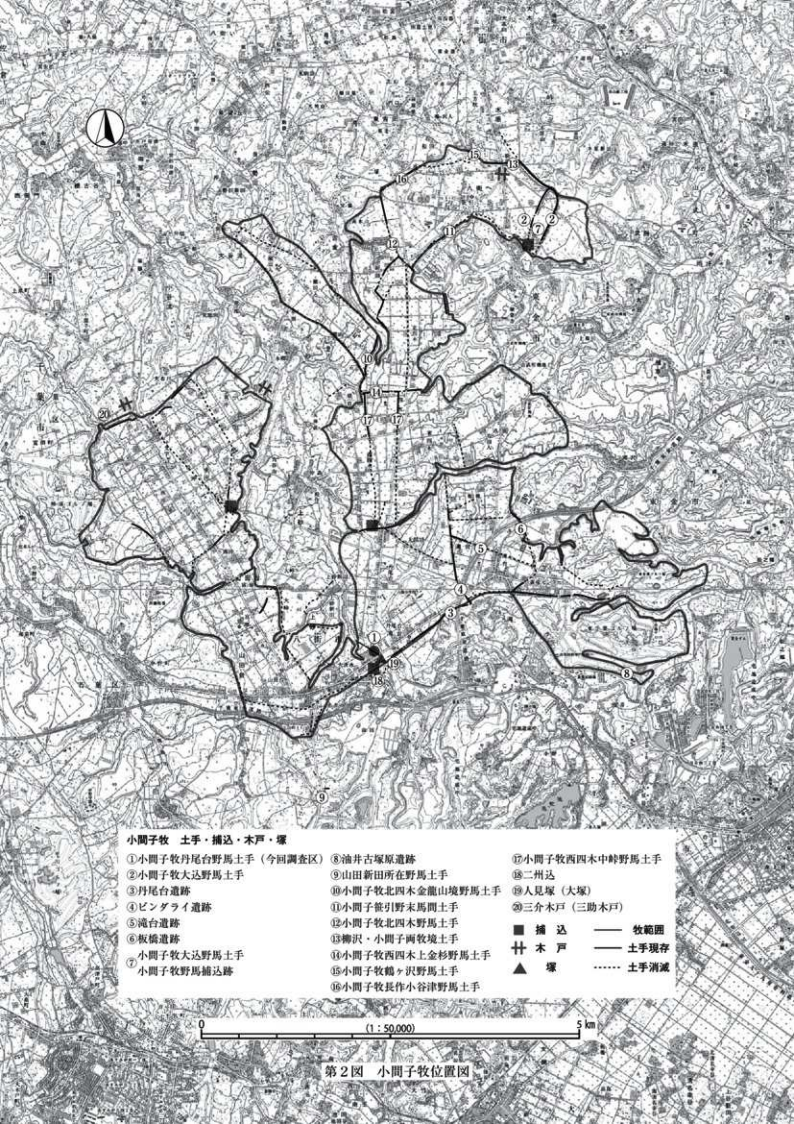
今回の調査対象となった近世牧の野馬土手は八街市山田台28の一部に位置し、太平洋に流入する真亀川の支流である北幸谷川の源流部にあたり標高約66mの台地平坦部に立地する。台地南側の谷津底面までの比高は約36mである。この地点は佐倉七牧うちの小間子牧の一部にあたり、調査遺跡名は字名から「小間子牧丹尾台野馬土手」とした。以下、小間子牧について説明を行う¹¹⁾。

千葉県内には江戸幕府直轄の牧として小金牧・佐倉牧・嶺岡牧が存在していた。小間子牧は佐倉牧の中で最南端にあり、柳沢牧の南側に接して位置する。もともと柳沢牧とは寛文2（1662）年までは一つの牧として機能していた。小間子牧の範囲は八街市を中心として、佐倉市、千葉市、東金市、山武市にまで及ぶ。「小間子牧附村々国郡石高及び地頭名」元文5（1740）年では小間子牧の野付村として八街市9・佐倉市5・千葉市6・東金市9・山武市3の32か村が挙げられている。1986年「千葉県生産遺跡分布調査報告書」¹²⁾では小間子牧の野馬土手22か所（総延長11.640m）と野馬込跡1か所の現存が確認され、2006年「県内遺跡詳細分布調査報告書」では絵図や迅速測図、発掘調査成果等を総合的に分析し、牧の範囲を第2図のように東西8.3km、南北7.8km～8.4kmと推定している。なお、明治維新後、新政府の牧の畑作農村化により、小間子牧は明治8（1875）年に開墾が開始されている。

小間子牧で発掘調査が実施された地点は本調査区を含めて10か所（第2図①～⑨）であるが、その他に八街市教育委員会により新たに命名された野馬土手（第2図⑩～⑰）が8か所ある。調査範囲の制約もあり、土手主体の調査例が多く、堀とセットで調査成果のある例は多くない。その中で平成4年に（財）印旛郡市文化財センターによって行われた「袋土手」と呼ばれる小間子牧大込野馬土手及び小間子牧野馬捕込跡〔第2図⑦〕は重要である。現在も良好な状態で遺存しており、その規模は東西約60m、南北約90m、面積は全体で約5,000㎡、内部は捕込・溜込・払込の3室に区画されていたこと、宝永火山灰及び囲土手の田表土から出土した銭貨などから江戸時代前期には捕込跡が造営され、宝永年間（1704年～1711年）以降に一部改変されていたことなどが分かっている。また、山田新田所在野馬土手〔第2図⑨〕については小間子牧から600m離れた地点に位置しているが、多少の規模の拡大縮小や立地的なことから小間子牧に関係する野馬土手の可能性が指摘されている。



第1図 千葉県内の近世牧位置図



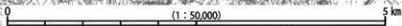
小間子牧 土手・捕込・木戸・塚

- ①小間子牧丹尾台野馬土手（今回調査区）
- ②小間子牧大込野馬土手
- ③丹尾台遺跡
- ④ピングライ遺跡
- ⑤滝台遺跡
- ⑥板橋遺跡
- ⑦小間子牧大込野馬土手
小間子牧野馬捕込跡

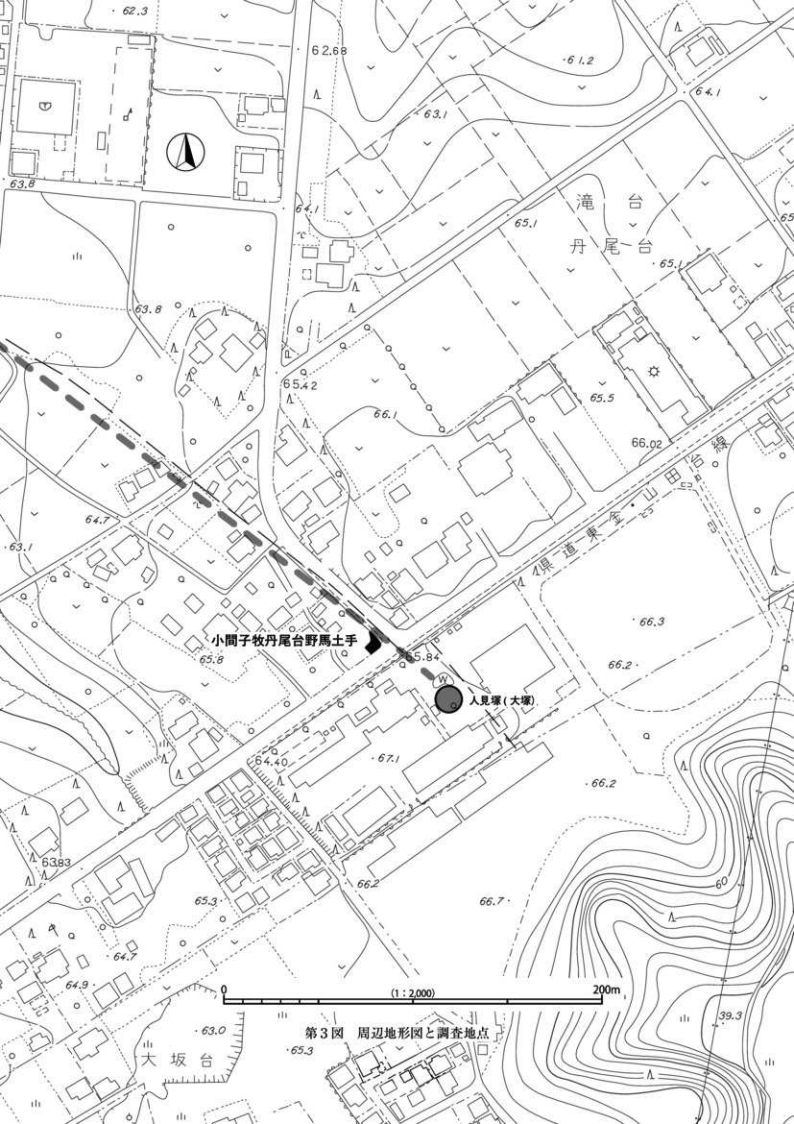
- ⑧油井古塚原遺跡
- ⑨山田新田所在野馬土手
- ⑩小間子牧北四木金籠山境野馬土手
- ⑪小間子笹引野末馬圃土手
- ⑫小間子牧北四木野馬土手
- ⑬榑沢・小間子両牧境土手
- ⑭小間子牧西四木上金杉野馬土手
- ⑮小間子牧鶴ヶ沢野馬土手
- ⑯小間子牧長作小谷津野馬土手

- ⑰小間子牧西四木中峠野馬土手
- ⑱二州込
- ㊸人見塚（大塚）
- ㊹三介木戸（三助木戸）

- 捕込
- 木戸
- ▲ 塚
- 牧範囲
- 土手現存
- 土手消滅



第2図 小間子牧位置図



小間子牧丹尾台野馬土手

人見塚(大塚)

(1:2,000)

200m

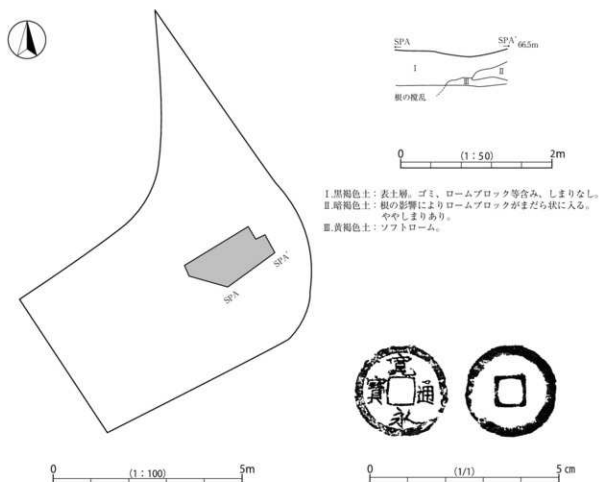
第3図 周辺地形図と調査地点

大坂台

第2章 調査の成果

過去に行われた交差点の擁壁工事などにより、土手の高まりは完全に失われていた。電柱その他交差点施設によりトレンチ等が設置できる範囲は限られていた。野馬堀等の施設が発見される可能性がある地点にトレンチを設定して人力により確認調査を行った。

調査の結果、Ⅱ層～Ⅲ層の一部まで工事等による削平が行われており、野馬堀などの遺構は検出されなかった。事業地内の表層から寛文8（1668）年以降に鑄造された新寛永と呼ばれる寛永通宝を採集した。大きさは外郭径24.21mm、孔径6.52mm、銭厚0.91mm、重量1.95gである。「寶」の文字の貝部分は五画目と六画目が離れており、いわゆる「ハ貝」である。



第4図 トレンチ・出土遺物

第3章 総括

今回の調査対象となった地点は小間子牧の南端部にあたる。調査対象地点は、かつて行われた交差点整備などにより損壊が著しく、土手部が削平されるなど遺存状態は不良であった。発掘調査の結果、野馬場など野馬土手に関連する遺構は検出できなかったが、事業地内から寛永通宝が採集されたほか、踏査により周辺に残る野馬土手の状況を記録することができた。

小間牧及び調査区の周辺状況については、第5図に示した「佐倉七牧大絵図（小間子牧部分）」によりうかがうことができる。現在「大塚」と言われている塚や土手については「人見塚ト云」や「土手形少有」との記載があるが、周辺の捕込についてはこの大絵図には描かれていない。同絵図の他の捕込箇所についてもすべてが記載されているわけではないが、「県内遺跡詳細分布調査報告書 房総の近世牧跡」^(注3)で「二州込」と認識されている箇所については牧関係の他の付帯施設などの再検討が必要かもしれない。

また、明治前期の迅速測図に、野馬土手調査地点と絵図等から判明している土手や塚、捕込の位置を表記したのが第6図である。今回の調査区の周辺は屋敷地と考えられる方形の土手状の高まりが記載されているが、野馬土手の一部を生かす形で役割や姿を変えて現代に残っているのがわかる。

最後に、今回の調査地点周辺の野馬土手などの踏査を行ったが、大絵図にも記載のある人見塚（大塚）などを除くとかつての面影を残しているのは僅かである。残念ながら、今回の調査では造営当時との関連をうかがわせる近世銭貨の発見を除くと、土手や野馬場などを確認することはできなかったが、本来は、広域的な保存が望ましい野馬土手のような遺構については、保存の手だてを講ずるのが極めて難しい状況にある。小規模な発掘調査であっても、周辺の聞き取り調査なども含めた記録保存の措置を講ずることが、今後益々必要となってくるであろう。

注1) 小間子牧・周辺遺跡の内容については下記文献を参照した。第2図は下記^(注2)の第38図を元に作成し、小間子牧内の土手などのNoと下記文献Noに対応している。

① 本書

② 八街町 1991「小間子牧野馬土手 西栗柳沢牧野馬土手発掘調査報告書」

③ (財)千葉県文化財センター 1998「千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書2-東金市大谷台遺跡他18遺跡-」第331集

④⑤⑥ (財)千葉県文化財センター 2000「千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書5-松尾町・山武町一本松遺跡、八街市板橋遺跡・滝台遺跡・ビンタイラ遺跡-」第388集

⑦ 八街市 1994「小間子牧野馬土手・野馬捕込跡発掘調査報告書」

⑧ (財)山武都市文化財センター 1994「油井古塚原遺跡(庄子台1.028地点)」第50集

⑨ (財)千葉県文化財センター 1997「県道山田台大綱白里線埋蔵文化財調査報告書1 大綱白里町一本松遺跡・山田台No6-2 東金市山田水呑遺跡・山田新田Ⅲ遺跡・山田新田所在野馬土手」第300集

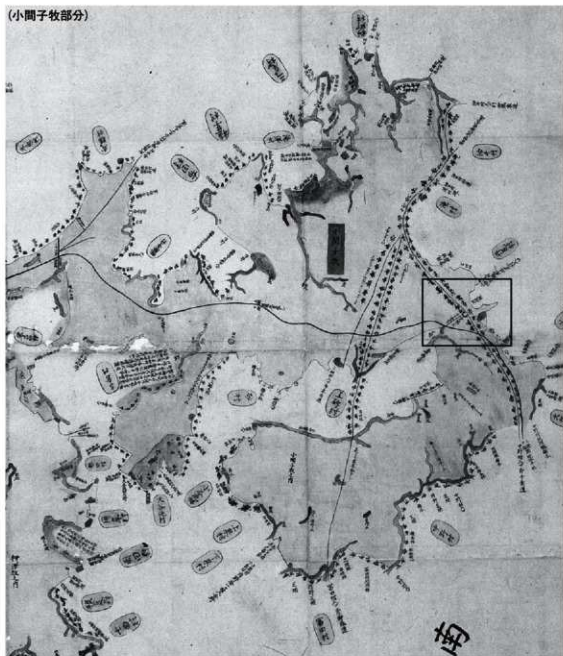
⑩～⑫ 八街市教育委員会提供

⑬～⑭ (財)千葉県教育振興財団 2006「小間子牧」[県内遺跡詳細分布調査報告書 房総の近世牧跡]

注2) 千葉県教育委員会 1986「牧」[千葉県生産遺跡詳細分布調査報告書]

注3) (財)千葉県教育振興財団 2006「小間子牧」[県内遺跡詳細分布調査報告書 房総の近世牧跡]

(小間子牧部分)



調査区周辺拡大

第5図 佐倉七牧大絵図 (酒々井町教育委員会 提供)



第6図 迅速測図と調査地点 (S=1/10,000)

写 真 图 版



小田子依羽尾合野堤土手



道跡透視 (南西から)



貫通地透視 (南西から)



トレンチ掘削 (北西から)



トレンチ (北西から)



調査後風景 (北西から)



周辺の竹林 (南から)



三州小学校内大塚（北東から）



周辺環境（東から）



周辺環境（北西から）

報告書抄録

ふりがな	やちまたしおまごまきたんのうだいのまどて							
書名	八街市小間子牧丹尾台野馬土手							
副書名	一般国道東金山田台線防災・安全交付金(交通安全)事業埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第14集							
編著者名	田島新							
編集機関	千葉県教育委員会							
所在地	〒260-8662 千葉県千葉市中央区市場町1-1 TEL043-223-4129							
発行年月日	西暦2016年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
小間子牧 丹尾台野馬土手	八街市山田台28 の一部	12230	009	35度 34分 43秒	140度 18分 9秒	20151022	36㎡	道路改良工事
世界測地系 WGS84								
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
小間子牧 丹尾台野馬土手	野馬土手	近世	なし		近世銭貨			
要約	調査対象区は小間子牧の南端部の一部である。調査地点では、土手部は削平されており、野馬堀など土手関連施設も確認することができなかったが、近隣に残る当該野馬土手の遺存状況を確認することができた。							

千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第14集

八街市小間子牡丹尾台野馬土手

— 一般県道東金山田線防災・安全交付金(交通安全)事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成28年3月25日発行

編集・発行 千葉県教育委員会
千葉県中央区市場町1-1

印刷 株式会社正文社
千葉県中央区都町1-10-6
